

2008年度

# 国際交流基金賞

## 受賞者発表

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は1973年以来毎年、学術・芸術など文化活動を通じて日本と海外の相互理解の促進に顕著な貢献のあった個人または団体に対し、「国際交流基金賞」を授賞しています。このたび2008年度の受賞者3名が決まりましたので、ここにご紹介します。

なお、昨年度まで、国際交流基金賞、国際交流奨励賞を授賞していましたが、今年度からこれらを統合し、文化芸術交流、日本語、日本研究の3部門で国際交流基金賞を授賞することとしました。

マルコ・ミュラー氏

Marco Müller

ヴェネチア国際映画祭ディレクター  
「イタリア」



欧州の主要な国際映画祭のディレクターとして、日本を含むアジアの優れた映画を見出して積極的に紹介し、日本映画の豊かさを広く海外に知らせることににより、世界の新たな文化的創造に大きく貢献した。

**イ** タリアで研究者として活動したのち、1978年ごろより映画評論家、プロデューサーとして活躍。ベザロ国際映画祭(イタリア)、ロッテルダム国際映画祭(オランダ)、ロカルノ国際映画祭(スイス)など欧州の映画祭ディレクターを歴任。04年より現職。これら国際映画祭において日本映画特集を実施し、日本の映画監督を高く評価し紹介するなど、映画を通じた海外への日本文化紹介に大きく貢献した。ヴェネチア国際映画祭は1932年に開始された世界で最も歴史のある映画祭。05年に宮崎駿監督に栄誉金獅子賞を贈り、また07年には北野武監督映画作品にちなんで「監督・ばんざい!賞」(Glory to the Filmmaker Award)を創設。第1回受賞者に北野監督を選んだ。また、プロデューサーとして多数の作品を制作。☺

## アンジェラ・ホンドウル 氏

Angela HONDRU



ルーマニアにおける日本語教育の草創期より長年にわたり教師、教科書執筆者、研究者として日本語普及を積極的に行なうとともに、ルーマニア語への翻訳を通して日本近・現代文学及び日本文化の紹介に大きく貢献した。

ヒペリオン大学言語学部日本語・日本文学専攻教授  
【ルーマニア】

70年代後半からブカレスト人民大学の日本語講座で講師を務め、1989年の体制転換後もヒペリオン大学における日本語・日本文学専攻開設、高校や小学校での日本語授業開始に尽力した。『日本語入門』など、数々の日本語学習書を執筆。日本語普及活動を積極的に行なってきた先駆者である。

また、夏目漱石、三島由紀夫、安部公房、大宰治、村上春樹などの作家の日本文学名作のルーマニア語への翻訳を行ない、ルーマニアでの日本文学の紹介にも貢献した。

近年は日本とルーマニアの民間信仰についての研究を進めており、『日本の民話・伝説』などを執筆。05年にはジャパンファウンダーシヨンのフェローとして来日、日本の神楽について調査、ルーマニアとの比較研究などを行なった。2008年外務大臣表彰。

## ケネス・パイル 氏

Kenneth B. PYLE



日本近・現代史を中心とした学術研究において多大な業績をあげるとともに、日本研究学術誌の編集委員長や日米関係の委員会の要職を務め、米国における対日理解、日本研究の発展と日米の学術交流に大きく貢献した。

ワシントン大学歴史学部・同大ヘンリー・ジャクソン・スクール教授  
【米国】

1958年ハーバード大学卒、65年ジョンズ・ホプキンス大学にて博士号取得（日本史）。日本近・現代史、政治・外交史で優れた業績をおさめ、日本研究のリーダーの一人として活躍。数々の研究機関の要職に就いて、米国における対日理解の促進に多大な貢献をした。

89年には、シンクタンクのアジア研究ナショナル・ビューロー（NBR）を設立し、アジア研究の振興に努めるとともに、行政機関への政策提言、助言を行なっている。06年11月には、NBR内に北東アジア研究に特化した「パイル・センター」が創立された。1999年勲四等旭日中綬章受章。

07年に、過去約150年の日本の外交政策について分析した著書『Japan Rising-The Resurgence of Japanese Power And Purpose』が刊行された。